

肥のあけぼの(ひのあけぼの)

登録番号:第4424号	来歴:「楠本早生」に「川野ナツダイ」を交配して得られた株
登録年月日:平成7年3月23日	心胚実生
登録者:熊本県(熊本県熊本市水前寺6丁目18番1号)	育成地:熊本県下益城郡松橋町豊福2566(熊本県農業研究センター果樹研究所)
育成者:磯部暁 藤田賢輔 重岡 開 稲葉一男 早上三男	

特性

■栽培特性

未結果期間の樹姿はやや立ち性であるが、結果期に入るとしだいに開張し中間の樹姿となる。樹勢は中程度、未結果期間の枝梢伸長は比較的旺盛で、新梢長、節間長ともに「楠本早生」より長く、「興津早生」と同程度である。結果期以降も「興津早生」と同程度の樹勢を維持し、着葉数は多い。

葉は、葉身の長さ、幅ともに「興津早生」より長く、「楠本早生」同様に波状を呈する。若齢樹では短い刺が若干発生するが、樹齢の経過とともに消失する。

結果性は樹の生育が旺盛なため、結果始めは他の極早生温州よりやや遅れる。結果期に入ると枝梢、葉数の発生が多いことから、連年安定した結果が望め、単位容積当たり収量は多い。

■果実特性

果実の大きさは「興津早生」と同程度、果形は果形指数138、「興津早生」より扁平で「楠本早生」と同程度であり玉揃いは良い。果頂部花柱痕には特徴的に突起(へそ)を形成する果実がある。果面は油胞の分布密度が高く、凹凸も少ないため滑らかである。果皮の着色は9月上旬頃に始まり10月中旬頃に完全着色する。果皮色は濃い赤橙色を示し、同時期の他品種と判然と区別できる。果皮の厚さは「楠本早生」、「興津早生」に比べやや厚く、じょうのう膜は「興津早生」に比べ柔らかく、果肉は柔軟である。

果汁の糖度は「楠本早生」に比べ高く、10月中旬には11~12度台に達する。酸は「楠本早生」、「興津早生」に比べ早期より低く、育成地では10月中旬に1%となる。浮き皮の発生は比較的少なく、採収出荷は10月中旬頃より行う。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病には感受性、かいよう病には抵抗性で、その他の病虫害防除は早生温州の慣行防除体系に準じて行う。

枝梢の伸長が旺盛で樹冠拡大は容易だが、結果始めがやや遅れることから、枝梢の誘引や摘芯等により落ち着いた枝梢の確保を図る。結果期以降は果実品質向上を図るため、生理落果が終了する頃よりシートマルチを行うが、被覆前には内成り・裾成り果を中心に摘果を行い、果実の初期肥大を促進させる。

浮き皮の発生が比較的少ないことから、特徴的な果皮色を生かし、食味の優れた果実を生産する完熟まで樹上に置くことが望ましい。

(藤田賢輔)